



心臓血管外科部長 上山 克史

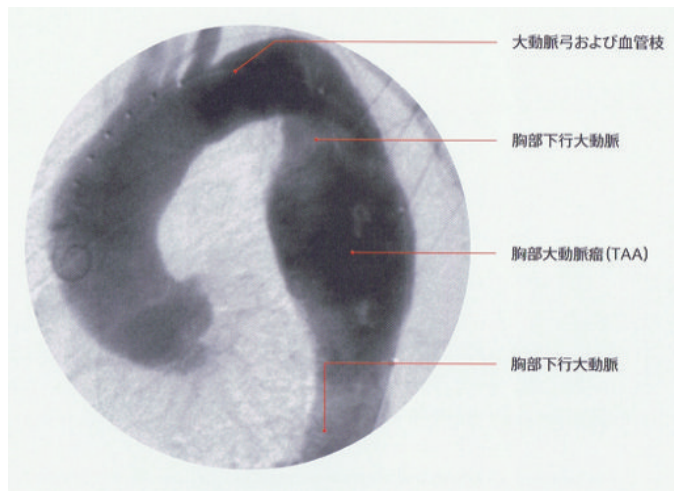


図1 胸部大動脈瘤の血管造影像



図2

大動脈は全身に血液を送る体の中で最も太い血管で、心臓から上向きに出た後、頭や腕などに血液を送る3本の血管を枝分かれしながら弓状に左後方へ大きく曲がり、ほぼ背骨の前面に沿って腹部方向に下がっています。その後腹腔内の主要な臓器に血液を送る動脈が分岐した後、ちょうどおへそのあたりで左右に分かれ、足先まで続いています。

大動脈の中には高い圧力（血圧）がかかっているため、動脈硬化などで弱くなった部分があると、「瘤（こぶ）」ができやすくなります。血管の壁が薄くなって大きく膨らんでくる病気が動脈瘤（どうみゃくりゅう）です。

瘤は大動脈のどの部位にでも起こり得ますが、発生する部位の違いによって大きく「胸部」、「胸腹部」、「腹部」に区別されています。これは部位によって手術方法が大きく異なるためです（図1）。

胸部大動脈瘤は、心臓から上向きに出た「上行部」、3本の血管分枝をもつ大きく曲がった「弓部」、背骨に沿って下方に向かう「下行部」に、また腹部大動脈瘤は腎臓より下方にできやすいといわれています。

真性大動脈瘤の多くは破裂しない限り無症状ですが、大きくなっていくと周囲の組織を圧迫して、胸部大動脈瘤なら咳、血痰、胸痛、背中の痛みが、腹部大動脈瘤なら腰痛や腹痛などがみられます。すでにこの段階は破裂する危険性が高まっている状態で、大動脈瘤が大きくなって破裂すると急死する危険性があります。

一番恐ろしいのは大動脈瘤の破裂による大量出血で、これによって年間に多くの人たちが命を落としています。大動脈瘤は、もし破裂したらその死亡率は80～90%にも上るといわれています。大動脈は、高い圧力（血圧）で全身に血液を送っているため、もし1箇所でも損傷したら大出血となり、脳や脊髄、肝臓、腎臓など重要な器官への血流が障害されてしまいます。

いったん動脈瘤ができてしまうと、自然に縮小することはない、有効な薬物療法もありません。そのため、大動脈瘤は破裂する前に治療するのが原則です。



図3

します。胸部や腹部を開腹する必要はありません。ステントグラフトによる治療は、手術ではどうしても必要な切開部をより小さくすることができ、所要時間も短いので、身体にかかる負担が少ないのが特徴です。挿入されたステントグラフトは、金属バネの力と血圧により広がって血管内壁に張り付けられるので、外科手術のように直接縫いつけなくても自然に固定されます。

大動脈瘤は切除されず残りますが、瘤はステントグラフトにより蓋をされることで血流が無くなり、次第に小さくなる傾向がみられます。

また、たとえ瘤が縮小しなくても、拡大を防止することで破裂の危険性がなくなります。

このステントグラフトによる治療法は今までの開胸、開腹手術に比べても危険性はほぼ同等といわれています。また、大きく開ける必要がないため、手術の翌日から歩行、食事も可能です。患者様の身体への負担も少ないため入院期間も短くて済みます。

しかし、誰にでも可能と言うわけではなく、血管の蛇行の強い人、動脈瘤の位置、動脈瘤内部の状態等によりステントグラフト治療ができない場合もあります。また、比較的新しい治療法のため、長期成績はまだわかりません。そのため、ステントグラフトを挿入された患者様は術後半年から一年毎の定期的な検査が必要です。その上でずれや破損が見つかった場合は追加の治療が必要となる場合もあります。

当院では開胸、開腹手術はもちろん、胸部、腹部ともステントグラフト治療認定施設となっており、患者様に合わせた適切な治療法を行っています。動脈瘤について相談したい場合はお気軽に外来に受診されるようお願いいたします。

舢倉島夏期総合診療 ～舢倉島紀行～

石川県輪島市の共催による舢倉島夏期総合診療は今年で32回目となります。

昨年度から当院看護師も同行可能となり、堀田副院長引率の元、今年は7階看護師田村と6階看護師竹川が参加しました。

診療の趣旨は「専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して耳鼻咽喉科、整形外科、眼科、内科、特定健診診療を実施し、舢倉島住民の保健医療の向上を図る事」です。石川県内の医師、看護師、保健師、放射線技師、県庁の方々等23名のスタッフが協力し、診療にあたりました。

私は、身体測定、心電図、血圧測定を担当しました。島の人達は温かい方ばかりで離島であるがゆえに、「自分の健康は自



分で守る」という意識が感じられました。第7代目舢倉診療所長であった堀田副院長は島の人気者で、先生の診療を心待ちにしていた島民の方が沢山いました。

診療以外では、県中や輪島病院の看護師達と親睦を図ったり、フリータイムに島めぐりをしたり、新鮮な魚介類を堪能したり、きれいな空、空気、海、温かい島民の方々に癒された有意義な3日間でした。

総合診療は島にとって夏の一大イベントのようで、住民の期待と信頼性は大変大きく、それに携われたことは私の看護師人生において大変貴重な経験となりました。

8.9（土）「ハートの日」を開催

日時：平成 26 年 8 月 9 日（土）午後 1 時～午後 5 時
会場：ホテル金沢 2 階

参加された方のコメント

お足下の悪い中、たくさんの方にご来場いただきました、どうもありがとうございました。

今年も地域の皆様へ感謝の気持ちを込めて「ハートの日」を開催しました。台風の接近により、あいにくの天気になりましたが、およそ 100 名の方にご参加いただきました。恒例の心臓カテーテルのビデオライブに加え、嵐山光三郎氏を講師に招き「年をとったら驚いた！」をテーマに特別講演をしていただきました。

当日のプログラム

■ 講習・体験会 ■

- ・冠動脈カテーテル治療（PCI）シミュレーション
～模擬血管による血管形成術体験～
- ・血管年齢測定（ABI）
- ・心肺蘇生講習会（AED）
- ・栄養相談会
- ・医療なんでも相談会

■ 講演会 ■

- 第 1 部
心臓血管病に対するカテーテル治療の
ビデオライブと解説
- 第 2 部
特別講演「年をとったら驚いた！」
講師：嵐山光三郎



・初めて血管年齢の測定をしていただき、とても参考になりました。先生方をはじめ、スタッフの皆さんがとても親切でよかったです。

・看護学生として心臓血管、循環器について興味があったので参加しました。無料でグッズがもらえ、なかなかみることが出来ないカテーテルビデオライブが見られ、今後の知識を深めて

いく上で勉強になりました。

・偶然、新聞でこのイベント開催の記事を見つけて、とてもよい機会に恵まれました。兄を心筋梗塞で亡くし、もしかして自分も…と不安を抱えています。年齢を重ねるごとに検診の重要性を痛感します。

・なかなか相談しにくい内容なども先生から声をかけてもらえたりと楽しませていただきました。来年もぜひ参加させていただきたいと思います。

・特に現在は悪くないですが、健やか検診で異常があったので受講しました。嵐山先生の講演をはじめ、全部よかったです。ありがとうございました。



■ ステントグラフについて

■ 舩倉島夏期総合診療 ～舩倉島紀行～

■ 8.9（土）「ハートの日」を開催

■ 地域医療連携室 ☎076-253-2220（直通）



浅ノ川病院グループ 心臓血管センター金沢循環器病院

www.kanazawa-heart.or.jp

autumn 2014



■ 病院理念 ■

循環器専門病院として、高度先進医療から老人医療にいたるまで「患者さま第一」のきめ細かい医療をおこないます。

■ 基本方針 ■

1. 優れたスタッフを充実させ 24 時間フル体制で先進医療を提供します。
2. 患者さまが安心と満足の得られる十分な説明と同意に基づいた治療をおこないます。
3. 病診連携を密にして地域のみなさまの健康と幸せな暮らしを守る病院を目指します。



浅ノ川病院グループ 金沢循環器病院
心臓血管センター
〒920-0007 石川県金沢市田中町は 16
TEL076-253-8000 FAX076-253-0008
<http://www.kanazawa-heart.or.jp>
info@kanazawa-heart.or.jp

編集 / 地域医療連携室 (M) TEL076-253-2220
はあとふる Vol.40 発行日 2014 年 10 月 10 日